

教育委員会会議 令和2年11月定例会 会議録

(13:30)

1. 開 会

市民憲章唱和

2. 教育長あいさつ

3. 会議録の署名者の件について

津山市教育委員会会議規則第15条第2項の規定による

4. 前回会議録の承認

全員賛成

5. 教育長等の報告

なし

6. 議事

(1) 報告

①岡山県学力・学習状況調査結果の概要について（学校教育課）

概要説明（資料6-1-1）

先週の金曜日に岡山県の学力・学習状況調査結果が公表になりました。例年は、4月に県内同一日に実施しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、実施期間を6月22日から8月31日までと定め、この期間内に各学校が実施しました。参加児童生徒数、実施教科等は資料のとおりです。本調査は岡山県学力・学習状況調査として実施していますが、全国の自治体が任意で参加することになっていきますので、市内、県内受験者数と併せて全国の受験者数も記載しております。

それでは、調査の結果について説明します。

まず小学校です。3年生は国語、算数いずれも全国の平均正答率を上回る結果となっています。4年生についても、国語、算数ともに全国の平均正答率を上回る結果となっています。4年生については、昨年3年生の時に実施した結果を記載しています。昨年から国語、算数ともに伸びていることがわかります。最後に5年生です。国語については全国平均を0.9ポイント上回っていますが、算数については全国平均を1.7ポイント下回る結果となっています。5年生も3年生からの経年で見ますと、国語、算数いずれも全国との差が縮まっています。次に、中学校の結果です。まず、1年生について、国語は全国の平均正答率との差が0.1ポイント下回るとなっており、ほぼ平均と同じ結果でした。そして数学は、4.3ポイント下回る結果となりました。次に、2年生は、国語、数学ともに3ポイント程度全国平均を下回る結果となっていますが、昨年度の1年生の時の結果と比べると、その差が少し縮まっています。また、英語は2年生のみで調査が行われています。資料の表はそれぞれの年度の中学2年生を比較したもので、異集団となっていますが、過去2年間と比較すると、今年度は全国平均を0.1ポイント上回り、全国とほぼ同じ平均正答率となっています。英語については、昨年度は全国と大きな差がありましたが、大きく改善しています。

続いて、成果と課題をまとめました。

まず小学校の成果として、3,4年生では全国平均を上回りました。低学年（1～3年）で市独自の学力調査を実施し、早期からつまづき解消に取り組み、定着を図ってきたことが要因として考えられます。また、国語では、「書くこと」の領域で改善が見られました。これも週末課題に条件作文を課す等の取組を行った成果と考えられます。算数では、基礎的な計算についてどの学年においても改善が見られました。また、3,4年生は、活用問題において、全国の正答率を上回りました。これも授業や週末課題で、様々な活用問題に取り組んだことが要因として考えられます。次に、中学校の成果としては、英語について平均正答率が上がっています。課題としていた「書くこと」の領域において全国の正答率を上回り、試行・判断・表現力が問われる「活用」の問題においても、全国及び県の正答率を上回っています。これについては、アウトプットを意識した活動による授業改善の成果と考えられます。

続いて課題です。小学校の課題として、5年生では、同一集団の経年比較において、全国正答率との差は縮まっていますが、算数の活用問題は全国正答率より低く、国語、算数ともに記述問題の無解答率が県に比べてやや高い結果となっています。中学校の課題としては、数学において、学力調査で出題されているような活用問題に挑戦する場が十分に確保できていないため、1,2年生ともに記述問題に課題があったと思われます。そして、国語、数学ともに、無解答率は近年改善しておりますが、依然として県に比べて高い状況にあります。

次に、学習状況調査の結果です。資料には、質問紙調査の結果を学年ごとに載せており、成果と課題をまとめております。

こうしたことを踏まえ、今後の取組についてまとめました。

教育委員会が取り組むこととして、課題のあった学校については、12月に教育長との意見懇談会を実施し、課題と今後の取組の共有を行う予定です。また、各校における授業改善や「学びのサイクル」の取組の徹底と確認が進められるよう学校の課題と今後の取組について把握し、取り組みが不十分な学校については支援していきたいと考えています。そして、小学校1年生から中学校2年生まで、11月から12月に「学力定着状況確認テスト」問題を実施し、この成果と検証をしっかりと行い、学校へ情報提供したいと考えております。また、校内において学力向上対策を進めている担当者を中心に、調査問題の効果的な活用や解き方指導の研修を行う予定です。指導主事は、授業改革推進リーダー及び推進員とともに、説明文の指導について具体的な指導方法を資料で示し、市内へ広めていく事も検討しています。また、低学年への「げんぼくんプリント」は引き続き提供していきます。最後に、家庭での学習時間及びゲーム等については、今後も校舎長会議や保護者向けの「親学講座」などで情報を発信し、情報モラル教育やメディアコントロールの取組を進めていきたいと考えています。

各学校が取り組むこととして、個に応じたプリントが作成できる「問題データベース」や「web評価支援システム」の活用を進めてまいります。また、当たり前の事ではありますが、学力調査の結果について、児童生徒や保護者に丁寧に説明し、課題をしっかりと共有していきます。そして、「児童生徒アンケート」「学校アンケート」等を活用した評価を行い、授業改善や「学びのサイクル」の具体的な取組内容の見直しを図っていきます。そして、コロナ禍で低下している児童生徒の自己肯定感を高められるよう、学校行事や自治活動の中で、活躍できる場の設定を行い、様々な経験を積ませていくことを考えています。家庭での学習時間及びメディアに対する対策として、授業の実施やPTAと連携した取組を進めてまいります。

今年度の全国学力・学習状況調査については中止となり、調査問題のみ配布されました。市教委としては、これを県の調査実施期間中に合わせて各学校で実施しました。学力調査の結果は、各学校が自校で採点したものを取りまとめて資料に載せています。今年度は、比較の中での成果というのは見えにくい部分もありますが、成果と課題をまとめました。

成果として、小学校の国語では、目的や意図に応じて文章全体の構成を考える問題の正答率が高く、算数では、数量や図形についての知識理解の問題の正答率が高かったという事でした。6年生の国語及び算数の無回答率は改善傾向にあったという事です。中学校では、「書くこと」の領域の問題は、昨年度より正答率が高かったという事でした。また課題として、小中学校ともに算数・数学の記述問題に課題が見られました。

続いて、学習状況調査の結果です。全国調査では、学校が回答する学校質問紙と、児童生徒が回答する児童生徒質問紙があります。まず、学校質問紙の解答を経年比較して得られた成果として、学習規律の維持を徹底することが進んでいる点、家庭学習や週末課題等の学習方法について、児童生徒に具体例を挙げ教えることが浸透してきている点、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導が中学校で進んでいる点が挙げられています。次に、児童生徒質問紙の解答から得られた課題として、小学生について、家庭学習に取り組む時間が減少している点、経年比較すると地域行事への参加が減少している点、「自分にはよいところがあると思う」の項目で小学生の数値が低下している点が挙げられています。今後の取組については、県調査と同様となっています。

②令和元年度 問題行動等調査結果について（学校教育課）

概要説明（資料6-1-2）

令和元年度の問題行動等調査結果について報告します。

まず、暴力行為に関してです。暴力行為の発生件数については、前年度に比べて小学校で3件増、中学校で8件減となり、1000人当たりの発生件数で見ると、全国及び県を下回っています。本市における現状として、小学校では、特定の児童が暴力行為を繰り返す事案が見られ、中学校では対教師暴力から警察に通報する事案に発展したものがありません。中学校では、学校警察連絡室や津山教育事務所と連携して進め

ている、規範意識向上モデル学区の積極的な取組が機能しているものと考えられます。各学校においては、年々落ち着いた学習環境づくりが進んでいます。今後に向け、教育委員会としては、低年齢からの規範意識向上のため、小学校と学校警察連絡室との連携を推進するとともに、暴力行動につながる情報をいち早くつかみ、重大な事態に至る前の早期対応にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。学校の取組としては、特別活動や道徳教育の充実を図り、落ち着いた環境づくりを進めること、保護者の信頼が得られ、一貫した指導となるよう校内指導体制の見直しを行うこと、様々なトラブルに対しソーシャルスキルトレーニング等、人とのより良いかかわり方について継続的な指導を行うこととしています。

次に、いじめに関する報告です。いじめの認知件数は、前年度に比べて小学校は8件増、中学校は29件増となっています。これは、調査の一部見直しに関する文部科学省の方針により、積極的な認知が進んでいる結果と考えられます。いじめの態様は、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句等嫌なことを言われる」という項目が多くを占めていました。いじめの解消率は、小学校が62.2%、中学校が63.1%でいずれも県を下回っています。これは、解消の1つの定義である3か月を超えて丁寧に見守りをしている事案もあるため、一概にいじめの解消が難しい状況にあるというものではございません。今後に向けた取組として、教育委員会としては、「津山市教育相談電話」をはじめとした様々な相談窓口の活用を勧めながら、教育相談アドバイザーとともに、いじめ解消への具体的な手立てを学校と確認しながら進めていきたいと考えています。また、新型コロナウイルス感染症に関わる差別や偏見にも注意を払い、適切な情報発信と啓発を行っていききたいと考えています。そして学校では、引き続き人権教育の充実といじめの積極的な認知に努めるとともに、情報モラル教育及びネットいじめ防止の啓発に取り組んでいきます。

続いて、長期欠席・不登校に関する報告です。長期欠席者数は、前年度と比較して、小学校で13人増、中学校では同数でした。小学校で長期欠席者数が増加した要因は、人間関係の崩れや本人の無気力、生活習慣の乱れ、不安定な家庭環境、教育機会確保法等の社会背景の変化などが複合的に絡み合っていると考えられます。長期欠席者のうち、不登校を理由とするものは、前年度と比べ、小学校28人増、中学校24人増であり、不登校出現率で全国及び県を上回っています。長期欠席の要因には様々なものがありますが、各学校が不登校としてアセスメントし、丁寧に関わることで状態が改善した事例もあります。今後に向けての取組として、教育委員会では、「岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード」を軸とした支援対象者リストを活用することやPTAと連携を進め、基本的な生活習慣を確立すること、特にスマホ等の長時間利用による生活習慣の乱れも見られるため、使用ルールについてもしっかりと声を掛けていきたいと思えます。また学校では、教育相談等に丁寧に取り組み、すべての児童生徒にとって魅力ある学校・学級づくりを進めることや、支援対象者リストを活用し、個々の児童生徒について状態の変化を重視した対応を徹底すること、欠席日数が増えた児童生徒に対しても、適切な学びの保障を行うよう取組を進めていきたいと考えています。

③ 広戸小学校 エコスクールの受賞について（学校教育課）

概要説明（資料6-1-3）

この度、広戸小学校が「エコスクール」表彰を受けることになりました。広戸小学校では、平成26年度から川の学習として水質検査や生き物調査を行う環境学習に継続的に取り組んでおり、その取組が評価されたものです。

④ 津山市「図書館を使った調べる学習コンクール」審査結果及び表彰について（生涯学習課）

概要説明（資料6-1-4）

例年図書館において実施されているコンクールの審査結果の報告です。資料のとおり、津山市長賞、津山市議会議長賞、津山市教育委員会教育長賞、奨励賞に4名が受賞されました。

7. その他

(1) 各課からのお知らせ

① 給食だより、11月イチオシ！給食レシピについて（保健給食課）

給食だより、イチオシ！給食レシピを発行しました。いずれもホームページに掲載済みです。給食だよりでは、11月8日は「いい歯の日」と題して、よく噛むことでいい事がたくさんあることを分かりやすく説明しています。イチオシ！給食レシピでは、かぼちゃの米粉シチューを紹介しています。また、11月9日から13日は「おかやま産地消週間」という事で、給食に初めてつやま和牛を提供しました。

② 津山市教育委員会通信（12月号）について（次世代育成課）

津山市教育委員会通信 12月号を作成しました。内容は、健全育成係や鶴山塾の取組を紹介する記事となっています。表面の「津山市成人を祝う会」に関する記事では、新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小して開催することや、YouTubeでのライブ配信をお知らせする内容となっています。

(2) 次回定例会の開催について

教育委員会規則に毎月第4木曜日が定例会開催日となっていますが、次回定例会は令和2年12月24日(木)午後1時30分から開催します。
全員賛成により決定

(3) その他

8. 閉会

(14 : 47)